

第9回 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会要録

- 【日 時】 平成 29 年 8 月 22 日（火） 午後 7 時 00 分～8 時 30 分
- 【場 所】 武蔵野市役所 8 階 811 会議室
- 【出席委員】 阿部迪子 今木仁恵 加藤慎次郎 木村 浩 齋藤尚志
迫田洋平 白石ケイ子 田口 誠 竹下 登 西上原節子
能勢方子 花俣延博 濱中洋子 平岡直樹
前田美和子 茂木 勉 山本信之（敬称略）
- 【事務局】 クリーンセンター所長、ごみ総合対策課減量企画係長 他
- 【欠 席】 岡内歩美
- 【傍 聴】 なし
- 【配布資料】
- 資料 1 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会報告書の概要について（平成 29 年 5 月 17 日厚生委員会行政報告資料）
 - 資料 2 店頭回収・自主回収の位置付けと支援策について（たたき台）
 - 資料 3 行政収集の見直しについて（たたき台）
 - 資料 4 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会 新委員名簿
- <参考資料>
- ・平成 29 年版 事業概要 廃棄物の抑制・再利用と適正処理

1 開 会

2 委嘱状交付

3 議題

（1）見直しの方向性について

【事務局】 資料 1 について説明。昨年までの議論の再確認をさせていただいた。

（2）店頭回収及び自主回収の顕彰制度について（たたき台）

【事務局】 資料 2 について説明。

【委員長】 2（1）顕彰制度の創設に「eco パートナーに上乘せ」とあるが、eco パートナーとは何か。

【事務局】 「eco パートナー制度」については、参考資料として配布した事業概要 P. 100 に記載している。武蔵野市は吉祥寺という大きな繁華街を有しており、平成 13 年度は事業

系持込み可燃ごみ量は 15,818t あり、クリーンセンターに持ち込まれるごみ量の 4 割を占めていた。そこで、平成 14 年度に事業系ごみ対策専門の調査指導係（現・減量指導係）を課に新設した。月に 10 トン以上の廃棄物を排出する多量排出事業者に立入検査、ごみ分別指導等を行い、事業概要 P.97 表「事業系持込み可燃ごみ量」のとおり、右肩下がりにごみ量が減っていった経緯がある。立入検査を行うにあたり、当初は事業者のみなさまにはずいぶん厳しい声を申し上げたし、事業系廃棄物処理手数料も、大量排出事業者には多く負担していただいていた。そこで、平成 19 年度に eco パートナー制度が創設された。表彰基準は、立入検査がベースとなっている。

食品関連事業所のみ設定をしているが、取り組み項目の中で、努力目標ではあるが、店頭回収も設定されている。eco パートナー制度は、ごみ減量・資源化の推奨に大きな意味をもつと想定される。

【委員長】 立入検査を受けてもらうことが必須になるのか。

【事務局】 そうである。

【委員】 平成 26 年度より小規模事業者も eco パートナーの認定はできる仕組みになっている。制度を活用して顕彰制度を位置づけるのか、または違う形で制度をつくるのか、今後協議していきたい。

【委員】 事業者の助成に関することだが、設置費用等具体的な数字はどう出すのか。

【事務局】 実際にかかった費用というのを事業者に出してもらい、そのうちの何割、というかたちでの助成が市では多い。どこのどの部分を助成するのか、この委員会でご検討いただきたい。

【委員】 例えば店頭回収の人件費まで対象にすると、昨今の財政状況からするとなかなか難しい。ただ、設置費用等インシヤルコストに関して一定の補助をする、ということであれば金額としても多額にならないし、支援していることを強調することもできる。

【委員】 クリーンむさしので、「店頭回収に出してください」というチラシを全戸配布したが、この前行政が出した資料によると、店頭回収は現在 7 パーセント程度にすぎない。チラシを配布しても、それほど影響力がないように思う。これが隔週の収集になりますと何パーセントに増えるかな、と。何らかのかたちで事業者支援をしていかないと何も進まない気がする。店頭回収用の袋の値段は分からないが、仕分けなど事業者の手間を感じる。そういった意味で事業者と話し合いが必要と感じる。また、eco パートナーの件は、事業者がこういった表彰式やごみ便利帳に載ることがどれくらいの効果があるのか。

【委員】 ごみ便利帳はかなりの市民が見ていると、事務局が言っていたように思う。

【委員】 私は北町在住だが、近くだけで 2 か所も店頭のごみ箱がなくなった。よく知っているコンビニに、なぜごみ箱をなくしたのか聞いたところ、「生ごみだけならまだしも、オムツやペットのごみなどの投棄が多い」ことが理由だった。自販機の横にごみ箱がなくなっているところもある。それも生ごみを入れられて、分別が大変だったと理由だっ

た。

【委員】eco パートナー顕彰制度の件だが、そもそも事業者がクリーンセンターに搬入するごみを、いかに減らしているかどうかを表彰した制度である。しかし、店頭回収や自主回収という部分は、購入者が持ってくる。そこが eco パートナーそもそもと違う仕組みかな、と感じる。コストの話は先ほどのお話にもあったように、本来事業者が努力していただくなかで、助成をするのは、金額的に難しい。やはり、顕彰制度の二つ目に記載されている「ごみ便利帳に対象事業者を掲載する」ということが重要だと思う。これを見て、市民の方がスーパーなりコンビニにお持ちいただくような仕組みを作らないといけない。市民の方が店頭回収に持っていくことで収集コストが減る。そこで、事業者が努力しているので、そこに助成しましょうと。このへんのことが、バラバラになってはいけない。今後高齢化が進むと資源ごみは総量が減らない可能性も出てくる。特にお惣菜に使われているトレイ。今後どう見据えていくか難しい問題であり、どこから始めるかは難しいが、この在り方検討委員会で、行政・市民・事業者の意識を合わせたという経緯があるので、このサイクルが本委員会の到達点なのかな、と思う。

【委員】可燃ごみが有料化したときに、市全体で何回か説明会を行った。隔週になることにあって、今回もそういうことは当然お考えかな、と思うが、それを便利帳にPRするタイミングと同時に、市民のみなさんに店頭回収を利用してほしいという説明会やチラシ配布を行うべきなのではないか。それと、全国におけるスーパーの自由意見が資料に書かれているが、いなげやさんの意見も聞きたい。

【委員】いなげやでは、ペットボトル・牛乳パック・食品トレイの店頭回収をやっている。先ほど投棄の話があったが、いなげやはコンビニのようなごみ箱は設置していないので、そこまでごみを捨てていく人はいない。食品トレイの回収について、一部分別が違っている場合があるけれども、店頭回収にお持ちいただいているお客様は、だいたい洗って持ってきてくださっているし、牛乳パックもきれいに洗って切ってくれている。そして買い物もしてくれていると感じる。先ほど袋の値段の話が出たが、袋の金額はあまり大した金額ではない。人件費も、量が多い店だと1時間に1回くらい袋を変えるけれども、有価物なので売却すると差引0くらいにはなる。大変なのは、生ごみのほうである。いなげやは、お金を払って豚の飼料にして売っている。正直リサイクルにまわせずに産廃にまわしたほうが安い。それでも、ごみを減らすという意味でお金を払っているので、そういった部分に助成があればうれしい。そうすれば他のスーパーも実施するのではないかな。

【副委員長】吉祥寺だと店頭回収ボックスがあまり設置されていないので、店頭回収に持っていくことが難しい。住んでいる地域によって店頭回収への考えかたが違うかな、と思う。また、ごみ便利帳に広告欄を設けるという話があるが、どういった広告を求めているか。事業者の一覧を載せてPRともあるが、事業者のほうも回収ボックスの設置が流動的に変わりますよね。ごみ便利帳は毎年全戸配布ではないと思うが。

【委員】全戸配布をするのは、3～4年に一度である。

【副委員長】となると、便利帳で一度印刷をしても、情報が変わると苦情がくるのではないかと思う。そのように広告や事業者一覧を載せることに、事務局はどうお考えなのか知りたい。

【委員】市が発行している「わたしの便利帳」に関しては広告を載せて、一定の歳入を得ている。店頭回収を実施している店舗への支援策として、広告欄として一定のスペースを提供する、ということも考えられるのではないか。

【事務局】いただいたご意見をもとに、次回もまた具体的に示したい。引き続きご検討いただきたい。

(3) 行政収集の見直しについて（たたき台）

【事務局】資料3について説明。一年間は52週あるが、収集を隔週にすると、実際には第5週を抜いて考えるため、2回×12か月＝24週分となる。年間で考えると4割強の収集頻度となる。収集品目の細分化、地区割りの細分化については、これによって地区ごとに出る業者の収集量、収集車台数が平準化されるというメリットがある。各事業者にもヒアリングをしつつ、事務局の現段階でのたたき台としてこのように考えた。

また、これまでは毎週同じ曜日に収集していたので必要なかったが、隔週化することによって、収集日の確認のためのごみカレンダーの作成を考えている。今回示した地区割りや品目の細分化はあくまでもたたき台であり、ごみカレンダーの必要性も合わせて、ご意見をいただきたい。

【委員】カレンダーはどうやって配布するのか。

【事務局】毎年1回全戸配布を考えている。

【委員】年1回ではなく、コミセンでポスターのように貼る方法はどうか。紙がもっていない、サービス過剰のように感じる。

【事務局】コミセンは開館時間が限られているので、使わない人もいる。また、ごみアプリやホームページなどの電子媒体は逆に高齢者は使わないことも考えられる。いろいろな方法でお知らせはするが、やはり市民14万人にお知らせするには紙ベースが有効であると考えている。

【委員】収集日が細かく覚えられない。

【事務局】資源物を隔週化している近隣市では、ごみカレンダーを作っていて、かつ全戸配布している。隔週化に関しては、もちろん説明会なども考えている。

【委員】資源物の細分化について、この案は良いと思う。ペットボトルは特に夏場はあふれる家庭があるので、店頭回収に持っていくのではないか。

【委員】少し振り返りをしたいのだが、隔週化を考えると、武蔵野市が他市と大幅に違うところは、資源ごみを20キロ先の瑞穂町まで持って行っているということだ

ある。事務局としては事業者ヒアリングをして、平準化、コスト削減を考えていると思うが、今後資源ごみ量を考えると、なかなか難しいところもあって、収集を半分の頻度にしても、全体の量が半分になるのではなく、瑞穂町に持っていくコストが相当量減るわけではないとも考えられる。となると、店頭回収を推奨したいが、事業者の負担も増える。高齢化を迎えるなかで、ごみを出すほうも負担は多い。いろいろと課題は多いが、すべてのバランスをとりながら、やるのかやらないのか、議論を今後深めなくてはいけない。

【事務局】ご意見いろいろ伺うことができた。見直しをしても、コストに関して言えば短期で劇的に減るといったものではない。マイナスとプラスを比較して、全体的に考えて結論を出したい。やはり何のためにやるのかという意義の部分が一番大きいポイントである。これからも議論を深めていただきたい。

【委員長】高齢者や障がいのあるお宅など、出しにくい状況にある方からの情報収集は行うのか。

【委員】ごみを出しにくい方も含め、一定程度情報収集が必要である、と考えている。今検討しているのは、ごみの減量に取り組んでくださっているクリーンむさしのを推進する会等へのアンケート調査である。障がいのある方に関しては、関係部署を介して聞き取りをすることも考えている。

【委員長】次回も引き続き検討していきたい。

(4) 次回の日程について

【委員長】調整の結果、10月3日(火)を第一候補日、10月2日(月)、4日(水)を第二候補日とする。

(5) その他

【事務局】3R環境講座の案内。

4 閉会

以上